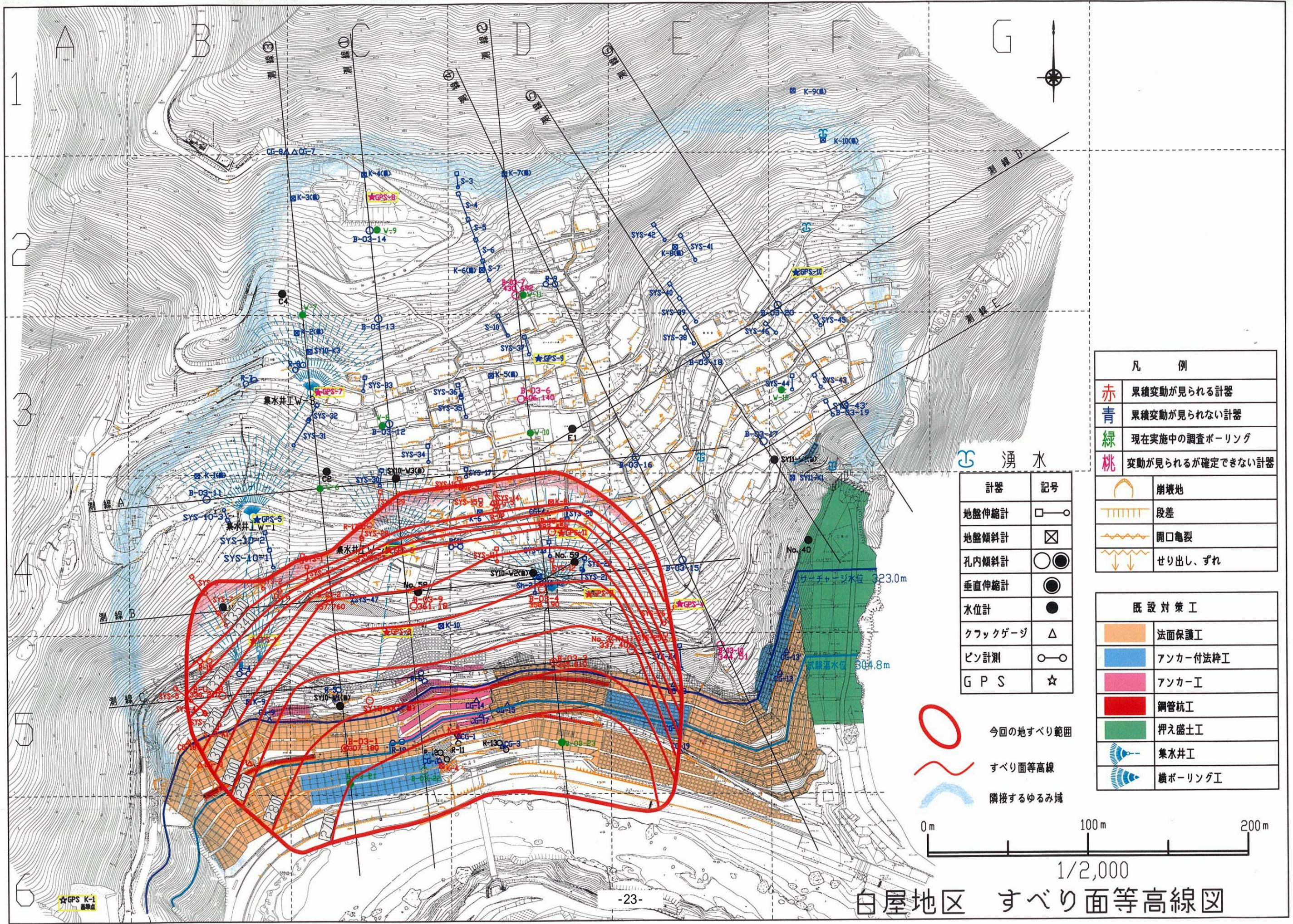


. 地すべり範囲の検討				
事 項	要 点			備 考
	今回のダム湛水により発生した地すべりの範囲	地盤の緩んでいる範囲		
	<p>範囲の根拠</p> <p>(頭部)</p> <p>村道上部で民家床下の亀裂や地山の亀裂が集中している。</p> <p>傾斜計 K-7~8 伸縮計 SYS-1~2,6~9,11~12,14~16, 27~29, CG-5~6, R-17~18 の運動、GPS-1~2,6,11 の移動</p> <p>(下流側)</p> <p>村道の段差、小段部のせり出し、法枠の亀裂等が見られる。</p> <p>傾斜計 K-1、伸縮計 SYS-3~5、CG-10~11,18、R-15 の運動</p> <p>(上流側)</p> <p>範囲を示す明らかな変状は認められない。CG-19 付近の変状</p> <p>伸縮計 SYS-25~26、GPS-3 の移動</p> <p>(末端)</p> <p>河岸付近の護岸の傾きや変形</p> <p>調査ボーリング B03-21~23 孔の緩みゾーン下限付近</p> <p>地質とすべり面</p> <p>孔内傾斜計 B03-1 孔(深度 30.0m)、B03-2 孔(深度 49.5m)、B03-3 孔(深度 43.5m)、B03-4 孔(深度 59.5m)、B03-8 孔(深度 9.5m)、B03-9 孔(深度 55m)、3 孔(深度 51~51.5m)ですべり面が確認され、これは下流側から中央部にかけて、泥質岩優勢層とその下位の緑色岩優勢層との境界に位置する。これより上位標高ではすべり面は確認されなかった。</p> <p>運動特性等</p> <p>下流側の変動がより大きく、上流側では小さい。全般に運動量が小さく、地すべりの初期段階の運動である。</p>	<p>今回の地すべりの範囲に隣接し、部分的に角礫化、細粒化、粘土化等がみられる緩み域が分布する範囲。なお、緩み域の中に認められる亀裂面の分布や角度にはバラツキがみられ、その連続性は不明瞭である。</p> <p>この範囲では地すべり運動の影響を受けて、GPS-4,7,8 など、孔内傾斜計 B03-6,7,10 孔等で微小な変動が見られ、今後変形が拡大する恐れがある。</p> <p>これらの緩み域の動き等は以下の通りである。</p> <p>(地すべり範囲に隣接する上流側の尾根部)</p> <p>地すべり運動の側方の圧力を受けて、若干変形が進んでいる。</p> <p>(地すべり範囲の上部斜面)</p> <p>地すべり運動により出来た隙間を埋めるような変形が発生している。</p> <p>(白屋谷地区)</p> <p>緩み域が分布し、変形が波及する恐れがある。</p>		



凡例

赤	累積変動が見られる計器
青	累積変動が見られない計器
緑	現在実施中の調査ボーリング
桃	変動が見られるが確定できない計器

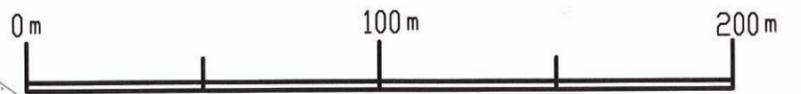
	崩壊地
	段差
	開口亀裂
	せり出し、ずれ

既設対策工

	法面保護工
	アンカー付法枠工
	アンカー工
	鋼管杭工
	押え盛土工
	集水井工
	横ボーリング工

計器	記号
地盤伸縮計	
地盤傾斜計	
孔内傾斜計	
垂直伸縮計	
水位計	
クラックゲージ	
ピン計測	
G P S	

- 今回の地すべり範囲
- すべり面等高線
- 隣接するゆるみ域



1/2,000

白屋地区 すべり面等高線図